



PRESS RELEASE

令和2年6月26日

学内産学共創活動「岡山大学オープンイノベーションチャレンジ」を創設 ～企業と大学の担当者がタッグを組んだ学内活動でマッチング効果を強化し、 より多様な新規事業創出（0→1）と既存事業育成（1→10）を目指す～

本学は「岡山から世界に新たな価値を創造し続ける SDGs 推進研究大学」を掲げ、研究力強化・産学共創加速の分野において「世界的研究拠点形成と SDGs を共通言語に戦略的かつ組織的産学共創のエコシステム構築」を進めています。2019年6月には「岡山大学オープンイノベーション機構」（略称：岡大OI機構）を設置し、戦略的・組織的産学共創の強化から社会実装の加速を目指しています。

今回、岡大OI機構では、企業と大学の担当者がタッグを組み、共にプロジェクトを創り上げていく産学共創活動のひとつである「岡山大学オープンイノベーションチャレンジ」（略称：岡大OIチャレンジ）を創設しました。岡大OIチャレンジを通じて、企業ニーズと大学シーズの掘り起こしや予想しない新知見の獲得などから既存事業育成（1→10）だけではなく、新規事業創出（0→1）においても容易に取り組める「共創の場」を手にすることができます。

本学で岡大OIチャレンジに取り組みたい企業などを逐次受け付けています。みなさまのお問い合わせをお待ちしています。

■はじめに

企業における新規・既存事業において大学は重要なステークホルダーであり、その密な関係は事業のみならず、研究・イノベーション人材の育成などの面においても重要な点です。ただ、対象となる大学と繋がりが無い、知り合いが少ないなどのために積極的に接触を持ちにくいことがあります。特にスタートアップやベンチャー、中小企業などは「大学は敷居が高い」と感じる“壁”があり、何から準備をすればいいのか、どこに何を聞けばいいのかなど、なかなか大学にアプローチがしにくいなどの点があります。

<企業の視点>



企業担当者



大学

どこの誰に聞けばいいのか、大学の制度もよくわからない。
 抱える課題などがうまく伝わらない。
 大学内で調査・営業活動はNG など

<大学の視点>



企業



大学担当者

問い合わせの具体的内容などがわからない。
 学内研究者のシーズを隅々までリアルタイムには把握できない など



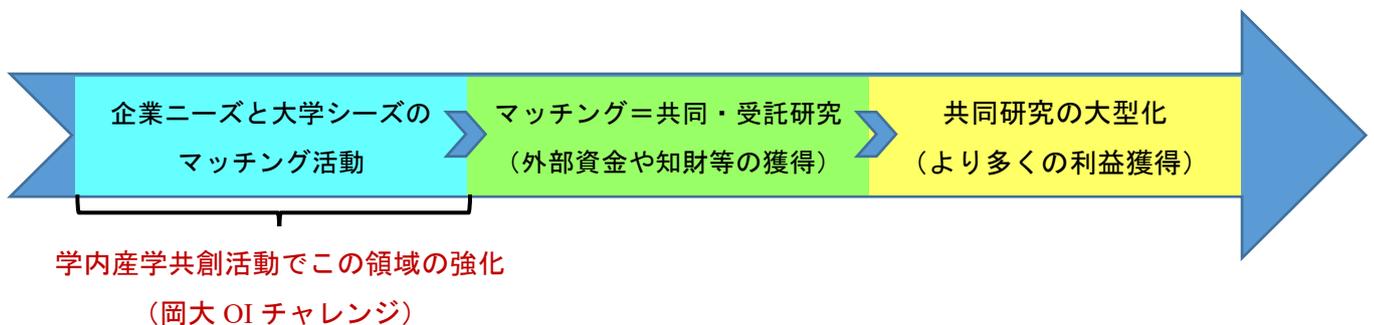
PRESS RELEASE

他方、大学は研究力強化やイノベーション創出のために企業と連携し、共同研究などを盛んに行うことを欲しており、そのための活動を精力的に行っています。ただ、企業あるいは社会の求めるニーズを十分に把握しているわけではなく、強いては企業が求めている“シーズの押し売り”や“研究者の押し売り”になることもあります。また企業などから「このようなシーズはありますか?」、「この分野の研究開発に強い先生は誰ですか?」などの問い合わせに対して、海外拠点を含む数多くいる学内研究者とそのシーズを事細かく、かつリアルタイムに把握しているわけではないため、うまくマッチングしないこともあります。これは企業と大学の貴重な出会いが無駄に終わってしまうこととなります。

■岡山大学オープンイノベーションチャレンジ（岡大 OI チャレンジ）とは？

<概要>

大学に対して課題をうまく伝達できない点や大学内調査・営業活動の NG などを無くし、また大学に数多くある産学・人材育成制度などを明確に企業に提示することで、企業と大学の担当者がタッグを組んで共にプロジェクトを創り上げて活動する「産学共創活動」のひとつです。産学共創活動における、「マッチング活動」→「マッチング（共同・受託研究）」→「共同研究の大型化」の行程の中で、岡大 OI チャレンジは入口となる「マッチング活動」の領域を学内産学共創活動で強化する、これまでにない新しい取組です。



例えば企業が既存事業育成（1→10）などを行う際、大学のあらゆるシーズを探索しますが、これまでは大学担当者が提示したシーズを企業担当者が照らし合わせる「仲人のお見合い形式」のようなもので、うまく行かないこともありました。また企業の新規事業創出（0→1）を模索する際は、明確な企業ニーズが固まっていない時もあり、その際は大学や研究者らにどのようにアプローチすればよいのか悩みます。岡大 OI チャレンジでは、ニーズとシーズのマッチングからどのような新たな価値を生み出し、社会に提供できるのかなどの「共に創り出す（共創）」を起点に置き、企業と大学の担当者がユニットを結成し、タッグを組んで「学内活動（学内産学共創活動）」を行います。その中で「企業→研究者」、「研究者→企業」の双方からの課題や案などの提示・検討を行う「共創ピッチ」を開催し、よりよい産学共創を生み出します。特にこれまで企業は勝手に大学内で調査や営業活動を行うことができませんでした。大学担当者と共に学内活動を行う「共創の場」を得ることで、より多くの研究者との出会いや新たな知見の発見などに結びつき、事業運営などに大いに役立ちます。



<岡大 OI チャレンジの具体的な流れ>



①企業担当者が岡山大学オープンイノベーション機構へお申し込み¹⁾
お申込み先 e-mail : kikou@adm.okayama-u.ac.jp 電話 : 086-251-7112



②企業担当者と大学担当者 (URA やコーディネーターなど) が会談を実施 (1~数回)。企業側の案件や岡大 OI チャレンジの内容などの情報を共有。



③企業担当者と大学担当者の中で岡大 OI チャレンジを進める合意を得る。
(合意に伴う契約締結書などを用意する必要ありません)



④企業と大学の担当者が共に岡大 OI チャレンジのプログラム²⁾ 形成作業 (数回)。ビジョンやミッション、バリューやニーズ&シーズなどを明確化。



⑤OI チャレンジの学内周知。企業と大学の担当者がユニットを結成しタグを組んで各学部・大学院、研究所などを巡る「学内産学共創活動」を実施。



⑥秘密保持のもと「企業→研究者」、「研究者→企業」の双方から課題や案などを提示し、検討する「共創ピッチ」³⁾ を開催。(学内活動で巡る部署毎に開催)



⑦共創ピッチで Good な案件を個別に議論。企業と大学の担当者と研究者の三者で共創ピッチ内容を④で明確化した内容などに沿わせていく。



⑧企業と大学の担当者と研究者の三者で合意を得る。
(合意に伴う契約締結書 (例 : 共同研究契約など) を作成します)



⑨事業を開始。
(大学担当者が伴走して研究者の活動などをマネジメントします)

学内産学共創活動期間の目安…数カ月〜半年以内

新しい取組
これまでにない

【岡大 OI チャレンジの料金について】

2020 年度に実施するものは試行的な面を考慮して、企業側からの料金は徴収しません。活動に伴う企業側活動費 (社員の本学への出張費や共創ピッチでの「企業→研究者」資料作成費など) はご負担して頂きます。また来年度以降の岡大 OI チャレンジ本格運用のため、本年度実施した取組についてのご意見伺いやアンケート調査などのご協力を頂くことがあります。



<岡大 OI チャレンジのメリット>

○企業側メリット

- ・企業ニーズ内容を的確に大学担当者、研究者に伝えられる。
- ・学内産学共創活動の共創ピッチでは研究者提案で企業側が予想しない新知見の獲得などが可能。
- ・既存事業育成（1→10）と新規事業創出（0→1）の双方で利用できる。



○大学側メリット

- ・企業ニーズと大学シーズの掘り起こしができる。
- ・研究者のチャンス増 + 「営業」意識増。共創ピッチでの提案で企業側が予想しない新知見があった場合、当初予定していた企業ニーズ以外での新たな共同・受託研究への道が開ける。
- ・企業側の様々な担当（営業、研究、事業部、企画部等）と人的交流が構築できる。

■補足

- 1) お申込み先は、「岡山大学研究推進機構」の業務も担当しておりますので、同機構職員などが対応しています。また、本学東京オフィスにも職員が駐在していますので、関東圏の企業などの方は同オフィスにご連絡を頂いても大丈夫です。

<岡山大学東京オフィス>

108-0023 東京都港区芝浦 3-3-6 キャンパス・イノベーションセンター（CIC）6階
601号室 佐藤法仁宛
e-mail : norito-satoh@okayama-u.ac.jp 電話 : 03-6225-2905

最寄駅 : JR 山手線・京浜東北線 田町駅東口（芝浦口）から徒歩 1 分
都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅（A4 出口）から徒歩 5 分
https://www.okayama-u.ac.jp/tp/alumni/satellite_office.html

- 2) プログラム名は、「○企業名○ー岡山大学オープンイノベーションチャレンジ」（Open Innovation Challenge for Okayama University & ○企業英名○ Co., Ltd.）となる予定です。なお、プログラムを水面下（世間に対して非公表）で動かしたいという企業側の意向がある場合、実施期間中はそのように取り扱います。
- 3) 共創ピッチは、秘密保持のもと学内限定・非公開で開催します。



<お問い合わせ>

岡山大学オープンイノベーション機構 統括クリエイティブマネージャー
(大学院医歯薬学総合研究科 教授) 神川邦久
(電話番号) 086-235-7019

岡山大学 東京オフィス 副理事 (研究・産学共創担当) ・URA 佐藤法仁
(電話番号) 03-6225-2905
(FAX番号) 03-6225-2906



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。